

委員などからの情報提供による訪問や、市の検診と同時に実施している基本チェックリストで、「閉じこもり」や「うつ状態」が疑われる高齢者の、訪問や介護者のための家族介護教室を実施しています。今後、地域の住民や老人クラブなどの応援をいただき、声掛けや見守り活動が重要な対策と考えています。地域包括センターの集約化については、相談窓口の強化を図りながら、地域住民の利便性を勘案し、協議していきたいと考えています。

質問 2月13日に開催された、奥州市、消費者交流大会に参加された多くの方から、集会の目的は何か、政府が進めようとして



農業の大切さを再認識した消費者交流大会(Zホール)

ているTPPに対する危機感がまったく感じられなかった、との声が寄せられています。市長は大会をどう評価され、出席者の受けとめをどのように感じられたか伺います。

市長 農業者、消費者の方など、1300名にもおよぶ方々が出席していただき、全員で大会宣言を承認していただいたことは、評価に値すると考えます。また、一方では批判があったことも事実であります。



あべ 加代子

○市民憲章運動について
○多文化共生のまちづくりについて
○「救急医療情報キット」の活用について

質問 「奥州市民憲章」の制定は平成19年2月20日です。その精神を基に行政と市民が一体となり、まちづくりを推進する組織体制がありません。市民憲章を具体的に実現する「奥州市民憲章推進協議会」(仮称)の早期設立が必要と考えますが伺います。

市長 市民憲章の実践活動には、広く市民の心に根ざした取り組みが必要であり、まちづくり全般に

奥州市議会(渡辺忠に、手を携えて活力あ
議長)は25日開会の定るまちをつくる」と誓
例会から、初日冒頭にう3項で構成するしこ
出席者全員で市民
憲章を唱和する試
みを始める。新市
誕生から5年、市
民の一体感をさら
に高めようと率先
して取り組む。
市民憲章の理念
を議場から発信し
ようと議会運営委
員(菊池嘉雄委員
長)で協議して決
めた。議場では市
議が持ち回りで前
文を読み上げ、こ
れに続いて唱和する。感と活力が増すきつ
市民憲章は2009 けになればいい」と期
年2月に制定。郷土愛 待する。
と古里の文化を大切

市民憲章の制定

関わる事から深いご理解とご協力が不可欠です。全市的な推進組織の設立機運を高めて参ります。

質問 多文化共生のまちづくりを推進されている奥州市国際交流協会の活動、組織体制について、また、市長部局・教育委員会に分かれている国際交流について専門に行なう課の設置について伺います。

市長 国際交流協会には専門的な知識やネットワークを活かし重要な役割を担っていただいております。合併以前からの水沢・江刺・胆沢区における活動に加え、前沢・衣川区にも活動が徐々に広がっているようです。課の設置は想定しておりませんが、専門の職員を検討致します。

2月24日(木)『岩手日報』掲載

質問 災害時や救急時の病状を説明出来ない状況の事態に備え、かかり付け医、持病、服薬等の重要な情報を書きこんだ「救急医療情報キット」の普及について伺います。

市長 平成23年度実施に向け現在検討段階です。市として積極的に取り組んで参ります。

○行財政改革について
○森林組合の広域合併への支援について



えんどう さとし 遠藤 敏

質問 行財政改革は、職員の能力を十分に発揮できる環境をいかに作るかが重要です。能力向上にどう取り組む考えか伺います。また、莫大な予算を必要とする施設整備や建替えは難しい時代です。既存施設の長寿命化計画を策定するべきと思いますが伺います。

市長 市民の期待に応えるために、市では階層別研修、職種ごとの専門研修、職員自らが克服したい能力を開発する選択型の研修制度を導入します。また、公共施設の整備については計画的で適切な維持管理や効果的な予防保全を通して